

タマネギ残さのほ場すき込みによる循環型農業

後作水稲への影響は小さい

移植，生育，収量，倒伏に影響なし。 残さは約2か月で、ほぼ分解。



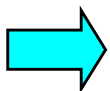
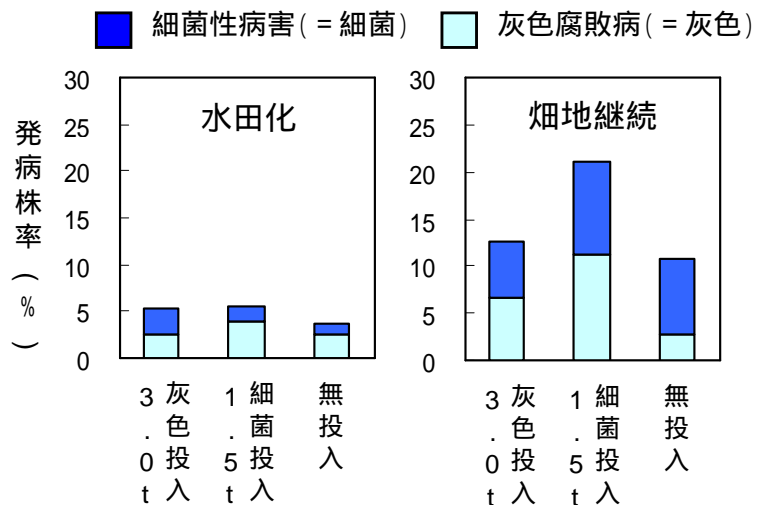
水稲の生育・収量

試験区	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
残さ無投入	16.4	389
残さ投入1.0t	16.8	402
試験区	地上部重 (kg/a)	精玄米重 (kg/a)
残さ無投入	131	49.2
残さ投入1.0t	133	50.3

残さ投入量は10aあたり、以下同じ。

水田化すれば次作タマネギの病害は増加しない

病害球のすき込み試験。 畑地継続では病害が多発。



病害球を含む、通常量の収穫時残さ（0.5t/10a以下）は、**すき込んで水田化**することで簡易に処理できる。

病害多発時や貯蔵中の残さ処理には、
あわせて炭化処理やビニル被覆処理の活用を！